

岩手の企業と、共にがんばる! (財)いわて産業振興センター広報誌

産業
情報

いわて

Vol.

114

2011.NOV
平成23年11月10日

隔月刊 奇数月発行

ものづくり大国日本の
ナンバー1をめざします!

特
集

2 今こそ! 岩手の底デカラ 支援企業紹介

和同産業株式会社

お
知
ら
せ

- 4 第12回いわて希望ファンド&
第9回いわて農商工連携ファンド
- 6 設備譲渡の情報提供のお願い
農商工事業化セミナー
- 7 北上商談会
商談会報告～仙台市にて2回開催～
- 8 震災なんかに負けない! 企業からのメッセージ

今こそ!

岩手の

底

デカラ

支援企業紹介

岩手県花巻市

わどうさんぎょう

和同産業株式会社



花巻市中心部より南に約3km、市街地近郊に広大な本社工場を構える和同産業株式会社は、全国でも指折りの除雪機械生産メーカーとして知られています。本社工場のほか北海道や長野にも営業所を構え、雪国の暮らしを支える同社の取り組みについて取材しました。

やるからには市場No.1の企業に 設備を生かす工場運営と人材育成

花巻市郊外の6万㎡を超える敷地に本社工場を構える和同産業株式会社。1941年に旧東北資源株式会社として創業、以来70年にわたり機械製品の開発・製造を行なっている老舗機械メーカーだ。

現在の主力製品は、中・大型除雪機と草刈り機・豆刈り機などの農業機械。研究開発から設計、加工、製造にいたるまでを一貫して自社で行い、自社ブランドの製品は除雪機・農業機械ともに各約30機種豊富なラインナップを誇っている。

さらには、大手メーカーから委託された小型の家庭用除雪機の製造や、充実した設備を生かした機械部品の塗装などの下請け業務も行なっている。

敷地内には部品を製造する機械工場、プレス工場、溶接工場、塗装を行なう処理工場、ライン化された組立て工場を経て、最終的な検査を行う品質工程がある。

溶接工場では、産業振興センターの設備貸与制度を利用して導入された溶接ロボットが何台も稼働し、アームが休みなく動き続けている。処理工

場では、工場面積の大部分を埋め尽くすほど巨大なカチオン電着塗装の機械設備が稼働。自社製品の作業はもちろん、関東自動車工業(株)の下請け会社から塗装工程を請け負うなど、2交代制を敷きフル稼働している。組立て工場では、秋から冬にかけてシーズンを迎える除雪機の組み立てが最盛期を迎えており、若い従業員たちがきびきびと赤い機体を完成させていく。小型除雪機1台あたりの組み立て時間はわずか5分程度。品質工程を通過した除雪機が毎日120台出荷されている。

地方企業の弱みと強みを使い分け モットーは「脱」下請「拡」下請

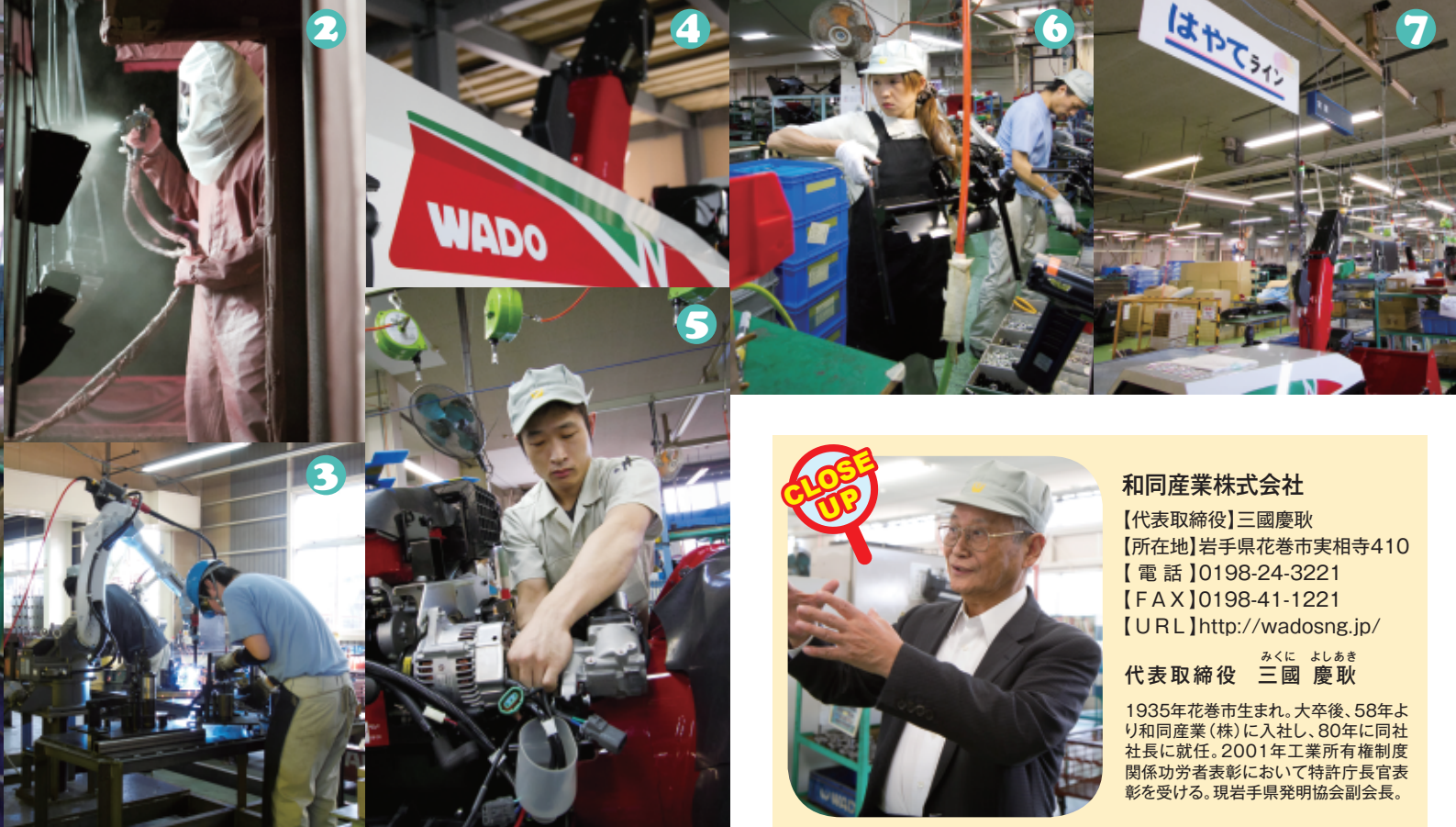
同社における自社ブランド製品と受注製品の売上げは同程度という。「当社では“脱・下請け”をめざしています。それと同時に“拡・下請け”もめざしています」と三國慶耿社長は語る。

地方の中小企業は大手メーカーに比べると、どうしても最先端の技術や部品の情報が手に入りにくい。特に季節商品である除雪機や農業機械の開発では、他社に新技術導入で先取りされると2年のブランクができてしまうという。三國社長が

今月の
表紙

和同産業株式会社の組立て工場にて。若い従業員3名が慣れた手つきでスピーディーに除雪機を組立てていく。

1日の目標台数や現在の生産台数を電光掲示板に表示することで、工場業務の「見える化」を図り、5分に1台のペースで除雪機が完成していく。



和同産業株式会社

【代表取締役】三國慶秋

【所在地】岩手県花巻市実相寺410

【電話】0198-24-3221

【FAX】0198-41-1221

【URL】<http://wadosng.jp/>

代表取締役 三國慶秋

1935年花巻市生まれ。大卒後、58年より和同産業(株)に入社し、80年に同社社長に就任。2001年工業所有権制度関係功労者表彰において特許庁長官表彰を受ける。現岩手県発明協会副会長。



「十年はひと昔と言うけれど、今は1年で時代が変わる」と現況を見据える中で、2年のブランクは大きな打撃だ。

しかし、地方ならではの強みもある。実際の顧客から現場の意見や要望など、細やかな聞き取りを行うことができる点である。「社長は会社にはダメ」という理念を持つ三國社長。製品開発などに役立つ情報を集めるため、顧客を訪ね各地を飛び回る日々だ。「試作機などを持って現場に行くと、思わぬ要望がたくさん出てきます。どれも“なるほど”と思うことばかり。農作物や自然を相手にしている機械なので、年によっても状況は変わります。お客さんに怒られることも、いいヒントになることばかりですよ」。足で集めた現場の声は、大手メーカーとの情報交換や共同開発に生かされている。大手メーカーとの強固なパートナーシップを構築することで、“脱・下請け”そして“拡・下請け”をめざしている。

ものづくり大国日本の企業として 課題を見据え、進化をめざす

同社では、3月の大震災を期に自社製品の売上げが落ち込んでいるという。「日本には資源が無い。だから、ものづくりを続けなくてはならないのは確か。品質、コスト、納期、これらを確実にクリアしていくしかない」と語る三國社長。「当社では春期の商品開発がこれからの課題です」と、自社の

将来を見据えている。

これまでも、社員の発表の場としてコンテスト等にも積極的に参加、発明関連の受賞は数多く、企画開発に意欲的だ。産業振興センターを通じた展示会への出展や、「工場管理実践塾」への参加を通し、販売力の確立や生産性の向上にも力を入れている。

「今年、来年とがんばるしかない、進んでいけば将来の道は自ずと見えてくる。今年は震災や電力削減で大変だった分、今後はいいことがあると思いますよ」。そろそろ後進に道を譲ろうかな、と笑いながらも若々しく顔を輝かせる三國社長。岩手を代表する企業として、「昨日より今日、今日より明日」の精神で今後も進化を続けていく。

< P.2・3写真 >

1. 組立てラインの作業の様子。生産目標や実績数を電光掲示板に表示することで「見える化」を導入している
2. 処理工場の様子。機械を通ってきた部品に、最後は人の手作業で塗装の仕上げ
3. 溶接工場では何台もの溶接ロボットが活躍
4. 雪や草むらの中でも目立つ「和同レッド」をブランドイメージに採用
5. 組み立てラインでは、若い従業員が手早く作業をこなす
6. 女性従業員も活躍する組立て工場の現場
7. 「はやてライン」とは生産ラインのこと。遊び心ある作業環境
8. カチオン電着塗装の設備
9. プレス工場のレーザー切断機
10. 自社ブランド製品が並ぶストックヤード
11. 本社社屋。奥には工場が建ち並ぶ





第12回

いわて希望ファンド

第9回

いわて農商工連携ファンド

公募中です ▶ 12/5(月)まで

いわて希望ファンド 地域活性化支援事業

県内中小企業等の革新的・個性的な取り組みにより地域経済の活性化を図るため、創業、経営革新、中心市街地活性化に向けた取り組みなどについて助成金交付による総合的な支援を行います。

事業 メニュー

起業・新事業活動支援事業

創業・起業や経営の革新に資する
中小企業等の以下の取り組みを支援

市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発又は事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	・ 創業する者 ・ 中小企業者（法人または個人事業者） ・ 特定非営利活動法人、農事組合法人等（地域資源活用枠のみ）
(1) 地域資源活用枠	(2) 起業・経営革新枠
「地域資源」（農林水産物、鉱工業品またはその生産技術、文化財等の観光資源など）を活用する事業	創業者（創業・起業から3年以内）が取り組む事業または経営革新計画の承認を受けた事業
助成率	1/2以内
※沿岸及び県北広域振興局管内の者が同地域で取り組む事業は2/3以内	助成率
助成限度額	200万円
助成期間	1年間 ※継続3年以内（毎年審査）
	助成限度額
	500万円
	助成期間
	1年間 ※継続3年以内（毎年審査）

事業 メニュー

中心市街地活性化支援事業

中心市街地や商店街の活性化に向けての
革新的な以下の取り組みを支援

市場調査・動向調査、新商品・新役務の開発または企業化、販売促進・販売力強化、業種構成再編・遊休資産活用等

対象者	・ 中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項各号に掲げる者 ・ 小売・サービス業を営む県内に住所のある中小企業者（法人または個人事業者） ・ 商工会、商工会議所、商店街振興組合、事業協同組合 ・ 知事が適当と認める特定非営利活動法人
助成率	9/10以内
※店舗賃借料については、「店舗賃借料／月×月数（助成対象期間×1/3）の算式によって算出された額の9/10以内」	
助成限度額	200万円
助成期間	1年間 ※継続3年以内（毎年審査）

第11回

いわて希望ファンド 地域活性化支援事業 採択事業決定

第11回いわて希望ファンド地域活性化事業について、その内訳は、起業・新事業活動支援事業の地域資源活用枠が5件、起業枠1件になりました。

9月5日に開催された外部委員による審査委員会において、下記6件の事業が採択されました。

区分	企業名	市町村	事業概要
地域資源	(株) イースト	北上市	「繭エキス」と「桑エキス」を使った基礎化粧品の開発と販路開拓
	(有) さくらの湯	奥州市	地元産のお米を活用した十割米粉麺の開発、並びに「食と温浴」を組み合わせた新サービスの開発
	はまなす亭たねいち産直店	洋野町	「ほやしお」販売再開に向けた種市産天然ほやの需要拡大（継続事業2年目）
	(有) 田村牧場	久慈市	自社牧場産日本短角種と岩手県産農林水産物等の組合せによる新たなメニュー及び加工品の開発と販路拡大
	銚子林業木材加工所	大船渡市	気仙地域発の「間伐材活用ハウス」の開発と販路開拓
起業	佐藤ぶどう園	花巻市	大粒ぶどうの枝付ドライ加工法（枝付干しぶどう）の確立及び販路開拓

いわて農商工連携ファンド 地域活性化支援事業

本県の地域経済の重要な担い手である農林水産業者と中小企業者との連携（農商工連携）を強化し、相乗効果を発揮していくことで地域経済の活性化を図るため、中小企業者と農林漁業者の連携体が行う創業や新たな事業展開等への支援を行います。

起業・新事業活動支援事業

創業者または経営の革新を行う中小企業者と農林漁業者の連携体を支援します。

市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発または事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	・ 県内の中小企業者と農林漁業者の連携体 ⇒ 農林漁業者とは、農業、林業、漁業を行うもの及びこれらの組織する団体（農協、森林組合、漁協、連合会等可） ・ 中小企業者以外で、県内の特定非営利活動法人等と農林漁業者の連携体 注）申請は、中小企業者と農林漁業者の連名で行い、どちらか一方を代表者と定め、センターとの連絡・助成金の受領等を行う		
	助 成 率	1/2以内 ※沿岸及び県北広域振興局管内は2/3以内	
	助 成 限 度 額	500万円	
	助 成 期 間	1年間 ※継続3年以内（毎年審査）	

いわて農商工連携ファンド 第8回 地域活性化支援事業 採択事業決定

第8回いわて農商工連携ファンド地域活性化事業について、9月5日開催された外部委員による審査委員会において、下記1件の事業が採択されました。

区分	企業名	市町村	事業概要
起業・新事業	きのこのSATO販売（株） （連携：野崎商工（有））	陸前高田市（盛岡市）	「気仙の森の木質バイオマス」活用型きのこ栽培拡大と加工品開発（継続事業2年目）

農商工連携の事例

～エゴマ調味料の事例～

中小企業者（調味料メーカー）

大豆・小麦アレルギーが発生しない新たなエゴマ利用調味料の試作や岩手県産の食材と組み合わせたレシピ開発等を進め、販路開拓を図る。

農林漁業者（農業者）

エゴマは、アレルギー治療や動脈硬化など健康食品として注目を集めている。農業や化学肥料を使わない生産を進め、研修会や産地の情報発信を行う。

連 携

それぞれが
工夫を凝らした
取組み！

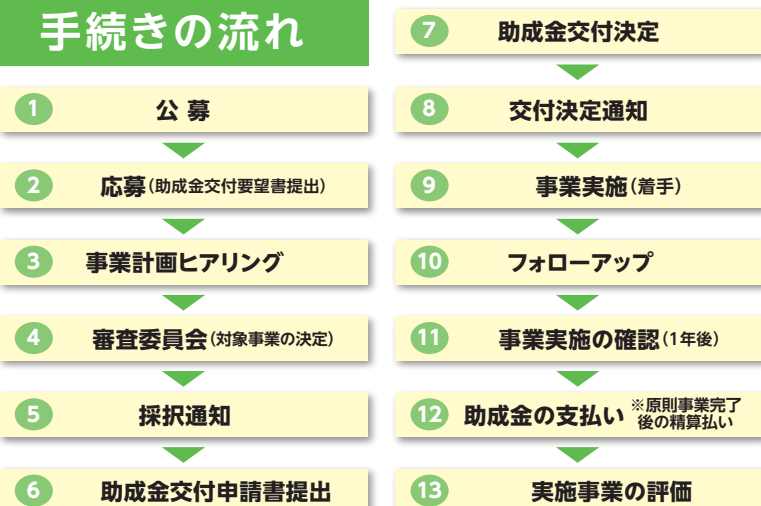


新商品開発！

農商工連携の基本的要件

- 1 有機的連携** 中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、それぞれの経営資源を有効に活用すること
 ー 「有機的連携」とは、通常の事業範囲を超えて両者が連携することを指します。
 ー 「経営資源を有効に活用」とは、両者の有する設備、技術、個人の有する知識及び技能その他ビジネスノウハウ、知的財産等が、本事業を実施するために具体的かつ有効に用いられていることを指します。
- 2 新商品の開発等** 事業により、新商品若しくは新役務の開発、生産又は需要の開拓が実現すること
 ー 「新商品若しくは新役務（サービス）」とは、事業実施主体にとって、これまでに開発、生産したことのない新たな商品又は役務であることが必要です。

手続きの流れ



お問い合わせ先

（財）いわて産業振興センター
新事業・研究開発グループ

- いわて希望ファンド担当／岸 敦
- いわて農商工連携ファンド担当／畑中 宗紀

TEL.019-631-3824
FAX.019-631-3830

E-mail:joho@joho-iwate.or.jp

商談会報告～仙台市にて2回開催～



東日本大震災を受けて、被災県を対象とした商談会が、8月末から9月にかけて、いずれも仙台市にて開催されました。

8月31日には、経済産業省、中小企業庁主催による「下請中小企業震災復興特別商談会」が仙台サンプラザホールで開催されました。

発注企業約50社、受注企業は約180社参加し、うち本県企業は36社の参加がありました。

本県企業の多くは3～4社と面談。予約面談の後、フリー面談も行われ、多いところではあわせて10社と面談を行った企業もありました。

9月8日には東京都中小企業振興公社主催による「被災地企業コラボレーション商談会(宮城会場)」が江陽グランドホ

テルで開催されました。

発注企業は在京企業を中心として約80社、受注企業は約140社参加し、うち本県企業は20社が参加しました。

本県企業は3～5社の受注企業と面談。終了後は名刺交換会も行われました。なお同公社主催の商談会の第2弾が、岩手県盛岡市を会場に、12月15日開催予定です(7ページをご覧ください)。

いずれも活発な面談が行われ、参加企業にとって有意義な商談会となりました。

このような商談会は以後も開催される予定です。多くの本県企業が参加され、復興に向けた第一歩、第二歩となることを期待しています。



「農商工連携及び地域資源活用に係る事業化セミナーII」(第2回)を開催しました



10月20日、盛岡市・ホテルルイズにて標記のセミナーを開催しました。

「農商工連携」「地域資源活用」の経営への活用を促進していただくことを目的に開催しているセミナーの2年目で、今回が本年第2回目となります。今年度は、あと1回開催する予定です。

(株)マーケティング総合研究所・代表取締役の新津重幸氏を講師に迎え、「商品開発に向けての実践的マーケティングと販路展開実践編2」と題し、商品提案や売場展開の具体例を紹介いただきました。さらに、「生活与件」をキーワードに、生活者の購買心理に基づいた商品提案について詳しく解説いただきました。

約40名の出席があり、豊かな経験に基づいた実践的講話に、参加者の皆さんは真剣に聞き入っていました。

最後となる第3回目は、新津先生の講演に、活用事例の発表も付け加え、募集定員も拡大し、来年3月15日に予定しております。岩手県内で食品の商品化や販路開拓に関心のある事業者・農林漁業者の参加をお待ちしております。これまで参加できなかった方も、どうぞご参加下さい。



平成23年度北上商談会 終了しました



さる10月20日(木)、県内外のものづくり企業を対象にした「平成23年度 北上商談会」を岩手県、北上市の後援をいただき、ホテルシティプラザ北上(北上市)にて開催しました。

本年度で33回目を数える今回の商談会では、県内・東北5県・関東他の地域から発注企業46社82名、県内外の受注企業177社259名が一堂に会して、個別商談や情報交換等をしていただきました。

3月に発生した震災など、経済環境が大きく変化を続ける中、発注側・受注側ともに、新規取引を成立させるべく、真剣な商談が数多く行われました。

今回の商談会に参加していただきました発注企業、受注企業の皆様に感謝申し上げますとともに、商談等の進展をお祈りします。



設備譲渡の情報提供のお願い

今般発生した震災に伴い、所有設備が津波で流失したり、地震で損壊した中小企業が県内に多数あります。これらの企業には、被災によって、新たな設備投資が困難な状況の企業も多いのが実情です。

現在、今後も使用する見込みがない余剰設備・遊休設備等をお持ちの皆様に、設備の有償・無償譲渡をお願いしています。

従来より製造業向けには、当センターの取引あっせんルートを活用し、設備の譲渡あっせんを行っておりますが、これ以外にもさまざまな業種での設備不足が考えられます。

(例:コピー機、空調機器、厨房機器、業務用冷蔵庫・冷凍庫、トラックや特殊架装車等)

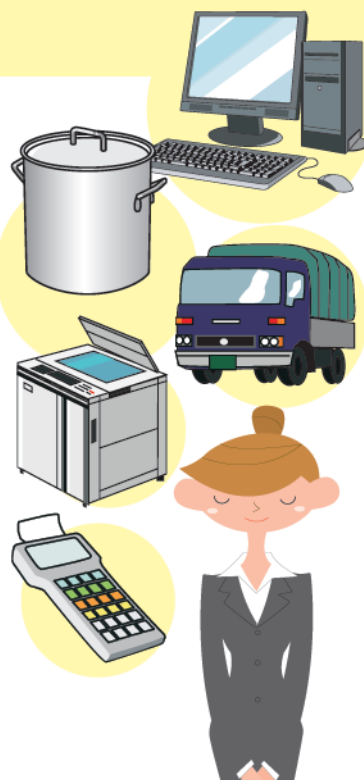
現在当センターには、「こういう設備が欲しい」という情報が集まっていますが、「設備を譲渡したい」という情報は不足しており、十分なマッチングができないのが現状です。

全国の「産業振興センター」相当の団体にもご協力いただいておりますが、県内の皆様にもぜひ、ご協力をお願いします。

設備をお持ちで、ご協力いただける方は、いわて産業振興センターまでご一報をお願い申し上げます。建物・土地の賃貸情報もお待ちしています。

注意) 有償譲渡の場合は、相対にてご相談ください。譲渡にかかる諸費用は、双方あるいはいずれかにご負担いただきます。譲渡時、譲渡後のトラブルに関しては、いわて産業振興センターは関知しません。

設備に関しては、原則として、減価償却できる物品をお願いします(減価償却済のものを排除するものではありませんが、使用できる状態のものをお願いいたします)。消耗品相当の物品は原則としてお受けできません。



◆担当 産業支援グループ

TEL:019-631-3822

FAX:019-631-3830

✉メール✉

sitauke@joho-iwate.or.jp

続報!!

被災地企業コラボレーション商談会 (岩手)開催について

東京都と公益財団法人東京都中小企業振興公社は、先の東日本大震災で被害が甚大であった岩手県・宮城県・福島県内の中小企業を支援するため、各県の中小企業支援機関等と連携し、「被災地企業コラボレーション商談会」を、被災各県で開催することとしており、その第2弾が下記日程のとおり岩手県盛岡市で開催されます。

現在参加者を募集中です。多くのご応募をお待ちしております。

概要

1. 開催日時：平成23年12月15日(木)午後1時から午後5時まで
2. 会場：ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング(岩手県盛岡市盛岡駅前北通2-27)
3. 参加料：無料
4. 参加企業(予定)：受注企業200社(岩手100社、宮城・福島50社程度)
都内の発注企業約60社
5. 交流会(予定)：午後5時から午後6時まで交流会を開催する予定です

応募締切 平成23年11月17日(木) お申込み 下記の公益財団法人東京都中小企業振興公社ホームページからお申し込み下さい。

<http://www.tokyo-kosha.or.jp/topics/1110/0011.html>

いわて産業振興センター・産業支援グループでも問い合わせを受け付けます

TEL: 019-631-3822 FAX: 019-631-3830 E-mail: sitauke@joho-iwate.or.jp

震災なんかに 負けない!

企業からのメッセージ

新たなスタートです

久慈市

スィムウェア・ダンスウェア製造 株式会社久慈ソーイング

丁寧な仕事が紡いだ支援の輪 主力商品を増やして1日も早い復興を!

津波は社屋のドアや窓を押し流し、生産に必要なマシンやその他の設備、反物はすべて泥水に浸かってしまいました。4棟あった社屋のうち2棟は使用不能に。幸い人的な被害は免れたため、設備を洗い、整備する作業から業務を再開しました。

しかしすべての整備には膨大な時間を要します。そこで産業振興センターや自治体などの協力で、ラインを組めるだけの設備をなんとか確保。

もともと丁寧な仕事で品質には定評があった同社。震災後に縁あって、ダンスウェアやシャツの製造など、新しい分野での製造依頼がありました。これを水着と合わせた3つの主力ラインとして、確立できるよう目指しています。

今後は県と中小企業整備機構が準備する仮設工場へ、工場の一部を移設することが決まり、ラインの拡大や作業効率アップを図ります。1日も早い被災企業からの復興に、社員が一丸となって頑張っています。



中田利雄社長



内壁の補修が終わったばかりの明るい工場。スタッフの丁寧な手作業で、製品ができあがっていく



都内で企画されたグランマプロジェクトのX'masオーナメントも、ここが生産拠点のひとつである



100台以上ものマシンが津波に飲まれた。泥や錆を落とし整備しているが、何台が使用できるかは不明という

新しくラインに加えたシャツ製造部門ではすでに有名ブランドからも製造依頼が届いている



久慈ソーイング株式会社 【所在地】久慈市夏井町大崎12-30-1
【連絡先】TEL/0194-52-4415 FAX/0194-52-4416

お知らせ

日頃より当センターの運営に厚いご支援を賜り、感謝申し上げます。

さて、当センターは、来る12月1日、社団法人岩手県産業貿易振興協会と合併することとなりました。

同協会は、県産品の品質向上、商品の開発を促進し、国内外における県産品の紹介宣伝及び販路の開拓等を通じて、地場産業の振興を図ることを目的として設立された団体です。

岩手県内外で開催される物産展や、見本市、商談会、特産品コンクールなどのイベント開催のほか、市町村産業まつりへの助成などを実施しており、さらに中国・岩手県大連経済事務所を運営、県産品のプロモーション活動などを通じ、本県と中国との経済交流にも務めてまいりました。

当センターと事業内容は異なるものの、本県産業の振興という点では共通しています。両者合併して、産業振興へ向けてさらに力を発揮してもらいたい、という県の方針もあり、かねてから合併の準備を進めてまいりました。現在、同協会は当

センターと同じ「岩手県先端科学技術研究センター」に入居しており、上記期日の合併に向け、手続きを進めているところです。

今回の合併では、協会の事業と組織を当センターが引き継ぎ、名称も引き続き「財団法人いわて産業振興センター」となります。物産展開催や県大連事務所運営などの協会事業は、原則、当センターの事業として継続します。

このたびの震災・津波により、県産品の生産・販売体制には少なからぬ影響がありました。その回復を目下の最大の課題と考え、県産品の販売促進に引き続き、取り組んでいきます。

いわて希望ファンドやいわて農工商連携ファンドなど現在のセンター事業との連携による相乗効果も期待されるところであり、他のセンター事業と併せ、合併後も「岩手県の産業の振興」のため、さらに努力してまいります。新生・いわて産業振興センターを、今後ともどうぞよろしく願っています。

財団法人いわて産業振興センター 事務局長 黒澤 芳明
(社団法人岩手県産業貿易振興協会 事務局長)

岩手県産業貿易振興協会HP <http://www17.ocn.ne.jp/~san-bo/> 同ブログ <http://ameblo.jp/san-bo/>

(財)いわて産業振興センター広報誌
産業情報いわて

平成23年11月10日(奇数月10日発行)

発行／(財)いわて産業振興センター
〒020-0852 盛岡市飯岡新田3-35-2(岩手県先端科学技術研究センター2階)
TEL.019-631-3826 FAX.019-631-3830
E-mail: joho@joho-iwate.or.jp URL: <http://www.joho-iwate.or.jp>
編集印刷／株式会社吉田印刷

